



Iwana Yasutake



Makishima Takeshi

2 つ の 森

Zwei Wälder



Mashio Kaoli



René Spitzer

デュッセルドルフと南山城村

2012.10.7sun - 10.21sun

12:00~17:00 初日のみ12:30~ 休廊日：水・木曜日

会場：Gallery Den mym本館・AIR南山城村

主催／Gallery Den mym 協賛／京都市地域力再生プロジェクト支援事業、南山城村 企画／岩名泰岳 テキスト／永草次郎



京都市地域力再生活動

Gallery Den mym
ギャラリーデン南山城村

AIR南山城村
Artist In Residence 青い家

2つの森 —デュッセルドルフと南山城村—

永草 次郎（美術評論家、帝塚山学院大学教授）

現代アートをリードし続けるドイツの都市デュッセルドルフ。そこにゆかりのある日独の画家たちの交流展が南山城村で開催される。国立デュッセルドルフ芸術アカデミーで学び南山城村にほど近い故郷に帰国した岩名泰岳の企画―「故郷や原風景の中の表現」「日本固有の絵画表現」とヨーロッパの現代絵画との出会い^①―をgallery den mymが受けとめ実現させた。岩名をはじめ、同アカデミー出身でデュッセルドルフ在住の牧嶋武史、真塩かおり、レネー・シュピッツァーの作品が集う。今日の絵画表現とは何か、それらが日本の風土mymの中でどのように見えるか、大いなる実験の始まりである。

岩名がデュッセルドルフ留学中の2011年春、mymのオープニング展《Visual Sensation vol.4》に作品を寄せたことは記憶に新しい。また、岩名から送られてきた大きなキャンヴァスに他の出品作家5名が次々にライブペインティングで描き足し制作した大作《カーニバル》は、3.11の震災の直後だったこともあって、共同による新たな創造の始動を深く印象づけた。現在、南山城村役場に所蔵されている。

南山城村とデュッセルドルフの縁はこの頃からすでに始まっていた。両方の地のゲニウス・ロキ^②が今回ふたたび呼びあった。異国の二つの風土、それを象徴的に、4作家がもたらす共通の印象でもある「森」と呼ぶなら、本展は「2つの森」の展覧会と呼べるだろう。森は、原風景、ふるさとの風土を表象する何かでもある。

ドイツ西部のライン河畔に位置し、かつて重工業を牽引したルール地方を含むノルトライン・ヴェストファーレン州の州都デュッセルドルフは、日本企業のヨーロッパ基地として知られるが、世界のアーティストが集う現代アートのメッカでもある。

18世紀にその起源をもつデュッセルドルフ芸術アカデミーは、19世紀中頃にはドイツロマン主義絵画の一翼を担うデュッセルドルフ派で知られた。アメリカからの留学生はアメリカにロマン主義的風景表現をもたらし、ハドソンリヴァー派の形成にも影響を与えた。ハドソンリヴァー派の風景画に見る崇高さが時を経て抽象表現主義の形成につながるとも指摘される。クレーも教鞭を取った20世紀も後半になると、さらに現代アートのスターたちが教授、学生として次々と



「燭の火」/ 2012年 油彩、キャンバス / 65×53cm

岩名 泰岳

1987年　三重県伊賀市生まれ。
2010年　成安造形大学造形学部造形美術科卒業。
2010年 - 2012年　ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミー 研究生

2010年　アートアワードーキュー丸の内2010準グランプリ
2011年　「Visual Sensation vol.4」ギャラリー-Den mym、京都
2012年　「私の場所　私たちの風景」MA2ギャラリー、東京
「Back from Japan」HPZ-Stiftung、Düsseldorf
「Universum」reinraum e.V、Düsseldorf



「夏の山」/ 2012年 /油彩、キャンバス / 72×60cm



「Selfportrait - Building」/ 2011年 膠、顔料 / 92×74cm

真塩 かおり

1976年　群馬県生まれ
2007年　文化庁新進芸術家海外留学制度研修員
2011年　ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミー 卒業

2010年　Self-Consciousness、Veneklasen Werner、Berlin
2011年　Paintings and films、Parkhaus、Dusseldorf
2012年　Kaoli Mahsio、Purdy Hicks Gallery、London



「Wood」/ 2008年 /油彩 / 64×48cm

て認識される。2つの森とは、他者との邂逅を示し、自分を再認識すること、また、「引き裂かれ」の前の同一化した混沌への憧れを示すのであろう。他者、もうひとつの森に会い憧れることが、己、故郷、その風土を認識し大切にすることを引き起こす。そもそも、それは同時に起こることなのだ。

はからずも3.11の震災は、故郷の森すなわち自然・風土がどれだけ大きな意味合いを持つかの現代における啓示となった。そして、ふるさとを守り、あるいは再生させるのは、他者のふるさととの出会いを経た後に他者として帰還することによるということを物語ることとなった。2つの森とは、ねぐら=den^③からの離反と帰還とによって生まれる経験であり、ふるさととはそこからしか生まれざるを得ないことも付け加えておこう。

岩名泰岳は、故郷で、そして、世界で生まれ来る「野の絵画」^④だ。彼は帰ってきた。もうひとつの森での生活を経て、もとの森に帰ってきた。この帰還が意味するもの、森のつながり。日本の洋画家が体験せざるを得ない何かを彼は森をつなぐことで示した。森で異なる土地をつないだ。心の森でつないだ。緑と土、水と光、大気と息吹、流れる樹液と風の流れ、それらの呼応に宿るゲニウス・ロキへの讃歌。

牧嶋武史には、歴史や物語性への懐かしさと、時空を超えるような未来の感覚が共存している。親しみと深さ。平凡と幻想。現代と郷愁。空間的にも時間的にもレンジのある森。森とはそのレンジへの賞賛であったと思わせる。タルコフスキーの映画のように、SFとふるさとの自然との出会いがある。未来と過去の出会いがある。

真塩かおりは、モダニズムの生気の蘇り。次の世代に継承されるかどうかの自信をなくしつつあるモダニズム抽象の骨太さ。それが継承どころか、解像度を増して、時代の表現となっている。手で描くことと、手を越えたフォルムを作り上げることとの対位法が画面にエネルギーを与えている。

レネー・シュピッツァーには、色彩とタッチが楽器のように奏でられ、メロディのような自然と人間の共存の物語が生まれている。その旋律はシンコーション、スタカート、転調の嵐に満ち、私たちの感情をつむじ曲がりに映す鏡となっている。自然から生まれながら、自然とは別の異なる調和や不協和を生み出す楽器の音のように。その音は自然との並走を超えて、先行し、物語を予見し、魂の存在を感じさせる。

未曾有の震災を契機に福島は世界の人々の異種なるFUKUSHIMAとなって新たな生命を吹き込まれるという奇跡が起きつつある。南山城村がmymという、Düsseldorfが「デュッセルドルフ」という自分の鏡像、あるいは、他者によるもうひとつの自分に出くわす遭遇を通じて、やがてその意味が分かる創造の木立がすでに立ち上がっているのだろう。

1) 岩名泰岳のmym手島美智子宛メール（下記）による。
・・・展覧会のテーマとしては昨年のVisual Sensationで永草先生がDenさんの南山城での活動と僕の絵について書かれた「故郷や原風景の中の表現」「日本固有の絵画表現」を引き継ぎ、それとヨーロッパの現代絵画との出会いにしたいと思います。・・・

2) ラテン語でローマ神話における「土地の守護神」。その土地が持っている独特の力、土地の雰囲気、気風、土地柄。

3) gallery den mymの名に由来となったden（ねぐら、巣穴）は森と切り離せない。なお、企画についての話し合いの際、2つの根源的なものの出会いとしての「2つの森」というキーワードが拳がってきた。その後、mym手島美智子から送られた企画への思いを以下に紹介する。

・・・今回の南山城村での交流展は、「3.11という自然災害、原発の災害が顕示した現代社会の最先端に在って、我々はこの先何処へ向かってゆくのか?」という世界的な問いを訊ねてゆこうとする、一つの方途となってゆかざるを得ないと思います。

もともと人はどうやって生きていたのか、という原風景を見つめ直すべく、「ふるさと帰り」のUターン、Iターン現象が、ここ南山城村にも顕発しています。21世紀の我々が謳歌してきた「文明社会」は、テクノロジー万能という妄信にしかすぎなかったのか？

地球上の二つの地点、「南山城村」と「デュッセルドルフ」、2つの森の遭遇が、何を映し出してゆくのか、ゆかないのか？
アーティストひとりひとりが生きてきた「時間」と「空間」を、かけあわせ、重ね合わせて、"明日"と言う奇跡を探ってゆく。そんな地味で、小さな、けれどある意味"実践"の力を持ったムーブメントとしてゆきたい。

4) 「野の絵画」は岩名自身のブログにある言葉。



「A. Lee Ann」/ 2012年 油彩、キャンバス / 60×50cm



「the game」/ 2011年 /紙、油彩、キャンバス / 60×80cm

レネー・シュピッツァー

1978年　メンヒェングランド/バツハ(ドイツ)生まれ
2002年 - 2009年　ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミー在籍
2009年　マイスター・シューラー取得

2011年　German Kleinformart、Bermondsey Project Space、London
MAULWURFTREMOR、Villa Karl Marx、Viersen
Gran Final、Raum Follows Function、Foyer Düsseldorf
2012年　Lowdown、At the Studio、Cologne

Opening Ceremony

10.7sun

13:00~
会場：Gallery Den mym本館

アーティストトーク

- レネー・シュピッツァー + 岩名泰岳 + 永草次郎
(通訳あり)

フード

- 高尾めし (釜飯、猪汁、郷土漬物 etc...)

Live Event

10.14sun

13:00~
会場：AIR南山城村

公開制作 + インプロビゼーション

- ドローイング/レネー・シュピッツァー + 岩名泰岳
- サウンド/ロビン 里

フード

- 森林食堂 (カレーライス)

robin sato

リバプールの音楽大学 (LIPA)を卒業後ベルリンに渡り、ノルウェー人ボーカリストとのユニット、SANAGIとして活動を始める。ベルリンのレーベル Traumtonからアルバムを2枚リリースし、ヨーロッパ中を飛び回る。解散後、ベルリン在住日本人バンド Apothekeの作曲担当として Sputnik Labからアルバムをリリース。シングル「かわいイズム」はインディーズチャート1位となる。日本に帰国後は Purfumeの Yoyogi Disco Mixを手掛けたり、ファッションブランド Macaronicの東京コレクション、ダンスグループ ELEVEN PLAY、映画 Killer Motel など、様々な分野に曲を提供する。現在、京都の南山城村を拠点とし、Cafe ねこぼんでマンスリーライブを主催しながら新しく始めたバンド Suelu のファーストアルバムを製作中。2012年10月の20日、リリース予定。



森林食堂

アーティストが物質を眼前に格闘し、新しい価値観を生み出していくのと同じ様に、モノづくり精神をスパイスと共に注ぎ込み、愛される唯一のカレーを作り出す。店舗化しちゃった、出張カレー屋。それが森林食堂です。
<http://shinrin-syokudo.com/>

アクセス

◎原則として「車」でのご来場をお願いします。

駐車場スペースは充分ございます。
会期中、駐車場は旧高尾小学校正門前 (Gallery Den mymから徒歩3分)をご利用ください。
詳細の地図はホームページをご確認ください。
<http://galleryden-mym.com>

■お車で越しの方

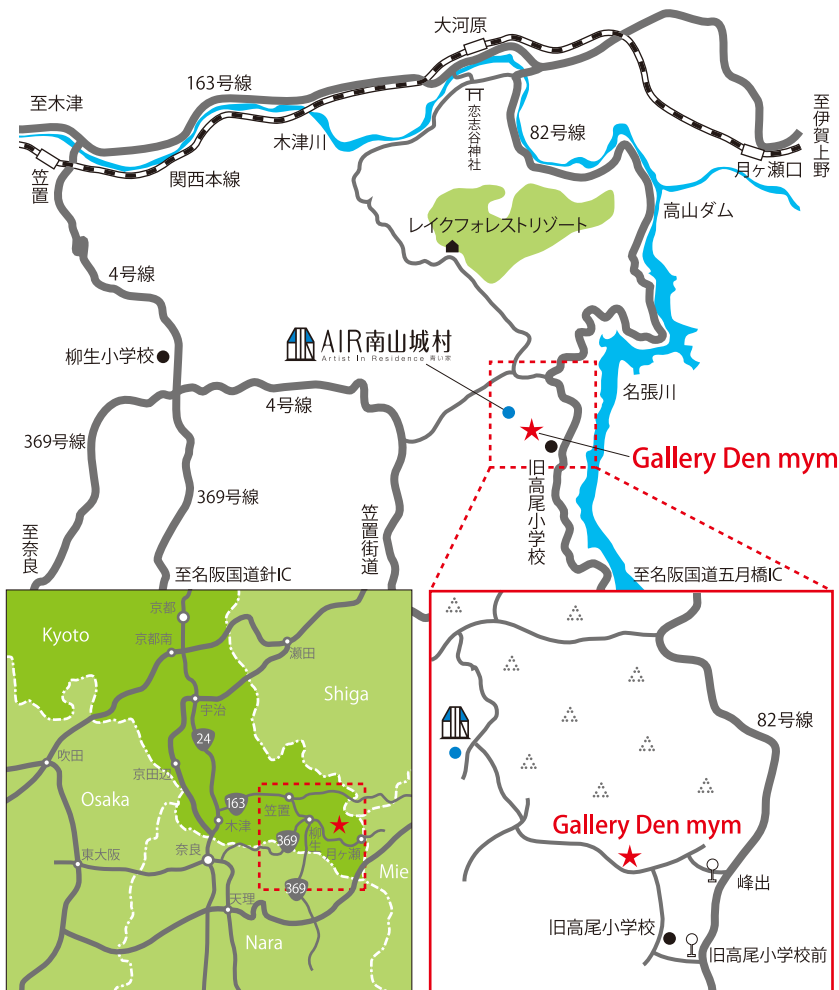
- 大阪・奈良方面より：369号線→4号線、途中左折して82号線
- 京都・三重方面より：163号線→82号線
- 名阪国道より：名阪国道五月橋IC→4号線→82号線

■公共機関で越しの方

- 大阪方面より
加茂駅 (JR大和路快速)で乗り換え、大河原駅 (関西本線)下車
- 京都方面より
木津駅 (JRみやこ路快速)で乗り換え、加茂駅から同上

大河原駅から徒歩約8キロです。駅前の木津川にかかる「恋路橋」(欄干のない沈み橋とも言われるこの橋は、想う人と共に渡ると恋が叶うとか)を渡り、道なりに行くと恋志谷神社に至ります。そこを右折し東海自然歩道を木津川に沿って進み、レイクフォレストを目指します。ここまでが登り道、辛抱どころです。そして、その駐車場をすり抜けてください。旧高尾小学校へ向け、茶畑の点在する山道を約1時間半ばかり。ご健脚の方向きの絶好のハイキングコースです。

□10月7日(日曜日)、14日(日曜日)に限り、大河原駅からギャラリー間を送迎車で送迎いたします。大河原駅前を東へ200mのところには『農産物直売所』があります。その広場に11時15分に集合してください。帰りは旧高尾小学校正門前16時30分に送迎車が出ます。(送迎車：南山城村協賛)



Gallery Den mym
ギャラリーデン南山城村

京都府相楽郡南山城村高尾下廣見35 TEL 0743-94-0012
E-mail:gdmy@mynifty.com URL:galleryden-mym.com

定休日：水・木曜日